

美しくなつかしい、日本をのせて。

# Cradle

特集  
庄内さくら百花  
庄内憧憬  
坂東真理子 評論家

【クレードル】出羽庄内地域文化情報誌

3

2011 March/April  
TAKE FREE



Cradle 3

美しくなつかしい、日本をのせて。  
「クレードル」出羽庄内地域文化情報誌

2011 March/April  
平成23年3月11日発行(隔月奇数月発行)第1巻4号(通巻4号)

発行/Cradle事務局 山形県鶴岡市山王町8-15 [株式会社 出羽庄内地域デザイン] 電話0235 (64) 0888  
制作/Cradle編集部 山形県酒田市京田2-59-3 [コアック・コーポレーション] 電話0234 (41) 0012



この旅を終えたら、告白をしよう。

神々が宿る大自然。山の海の豊かな食材。そして、慎み深く凛とした人びと。

心が洗われる。細胞が生き返る。

庄内に美人が多いと言われる理由が、旅をしてわかった気がする。

その旅、エステティック。

庄内

日本の心の内側へ

この場所にしかない、旅がある。(株)出羽庄内地域デザイン

みんなが夢みて憧れる桃源郷は、もてなす側の心の広さ、優しさがなくては存在しないことを、庄内で知った。

会わなくても「今あの人はどうしているだろう」と思い出す人がいる。「雪が積もっているかな、暑いだろうかな」と思いやる土地がある。私にとって、それが庄内、鶴岡である。

尊敬する長年の友人で、東北公益文科大学に赴任した大島美恵子さんから「庄内はとてもよいところよ」「二度遊びにいらっしやい」と声をかけていただきながら、なかなかその機会を持てずにいた。

そんな2009年の桜の花盛りの頃、庄内で講演をすることになり、魅力的な多くの女性に会うことができた。みんな知り合いで、みんな仲が良く、何てよい街だろうと深く印象に残った。しつとり落ち着いた温泉に泊まった翌日、松ヶ岡開墾場、羽黒山を訪れ、そして毛呂千鶴夫さん・富美子さんご夫妻が経営する毛呂農場「楽土苑」に案内していただいた。

そこはまさに夢みて憧れる桃源郷だった。広い農場には、米だけでなく、多種多様な花や野菜、豆、ハーブ、果物が植えられている。

小川のそばにはセリや行者ニンニクが自生する。農場内にある「遊就館」という堂々たる建物の2階は大宴会にびつたりの大座敷で、遠く雪をいただく月山や鳥海山も見渡せる。市役所や団体などで働いている女性がたくさん来て、楽しそうに準備の手伝いをしながらおしゃべりに花を咲かせる。ご夫妻の友人たちは収穫祭、バーベキュー、国際交流など、季節が変わる度に集まってパーティーを開くという。横浜在住のお子さんの家族も訪ね、モンゴルの留学生もお世話になる。そして富美子さん手作りのごちそうは、どれもおいしい。この時も満腹になってしまったので、もち草を摘んで作った草餅に自家製の小豆のぜんざい、同じく自家製の黒豆で作った味噌を、お土産に持たせていただいた。

私はかねてから都会人がこうした「心のふるさと」を持ち、折に触れて帰り、滞在し、そこで働くというライフスタイルに憧れを抱いてきた。イギリスの実業界では財をなして早めに引退し、田舎の農園でバラの品種改良をして過ごすのが最高の成功モデルといわれている。日本でもできないかと「定年帰農」というスタイルも提案してきた。しかしその理想を実現するには、怠けてはいけな

いのだ。毛呂千鶴夫さんは、自身の歯科医院を息子さんに任せ、農繁期は毎朝鶴岡市内から通って農作業をされている。それは富美子さんも同じで、野菜の世話、保存食作り、ハーブの手入れ、料理とめまぐるしく働きながら、訪れる人々を歓待していらっしやる。しつかり働き、そして慕い寄ってくる客をもてなす心の広さ、優しさが備わらなくては桃源郷を維持できないのだ。毛呂さんご夫妻を見ていると、それがよくわかる。またそのことで、本だけで知っていた藤沢周平の海坂藩の世界が一気に近い存在になった。

翌年、別の方の案内で毛呂農場を再訪し、その後も昭和女子大学主催のイベントで鶴岡産のサクランボを学生たちが即売したりする中で、庄内との新たな縁が広がりつつ、深まった。こうして私にとって思いやる土地となった庄内に、今度はいつ行けるかと待ちわびている。



ばんどう・まりこ／富山県生まれ。東京大学卒業後、1969年に総理府入省。埼玉県副知事、プリズベン総領事、初代内閣府男女共同参画局長などを歴任し、現代社会における女性の生き方に鋭い意見を述べ、男女共同参画から始める地域づくりなどに取り組む。また2006年発行の著書『女性の品格』（PHP新書）は、300万部を超えるベストセラーとなった。昭和女子大学学長、評論家。

写真提供＝毛呂農場「楽土苑」

# 特集

# 庄内

# さくら

# 百花

桜一色に染め上がる、日本の春。  
四季の移ろいの中で生きる私たちは、  
桜の無垢なつぼみや、爛漫の花盛り  
散り急ぎ誘う様、花の名残に  
一喜一憂しては心情を重ね  
春という新しい生命のときに歓喜します。  
花は里より咲き初め——  
庄内もだんだんと色つき始める頃。  
それぞれの春に、百花の桜が  
美しく、輝き満ちて咲きますように。

◎参考

「新日本の桜」山と溪谷社

有岡利幸・著「ものと人間の文化史桜Ⅰ」桜Ⅱ

「さくら百科」丸善株式会社

「TREE DOCTOR No.13 特集サクラ」2006年3月日本樹木学会



美しい山形 最上川「夢の桜街道写真コンテスト」 第1回最優秀賞「洗沢川春景（遊佐町） 佐々木吉治

春になると逢いに行きたくなる桜が、この庄内に二本ある。一本は井岡寺の、もう一本は菅家庭園の、ともに枝垂桜である。「逢いに」とまで書くのは、その木のもとへ行くことに心急かされるからだ。

七年前、初めて井岡寺の枝垂桜を知ることになった。鶴岡市井岡にある専門学校に着任したばかりの私を、同室だった先生が連れて行って下さったことに始まる。それからこの一樹は、私の語彙の「桜」の項の一番目を占めるものとなった。

この桜は、井岡寺の庭園の奥隣接する遠賀神社を戴く山へ続く傾斜地に立っている。毎年花時になると、寺では庭に面した縁に、緋毛氈など設えて下さる。

ある年、それは寸時のことだったろうが、縁先に腰掛けているのは私一人きりということがある。数百年を生きて、千万の花びらをつけた枝が垂れ、風に揺れているのを、私はじつと見ていたはずだった。それが、見ているうちに、枝の無数の花びらが集まって、生きもののようになり空間を押し上げたり、引き下げたりしているように見えてきたのである。桜が風を起こす

ということなら、「花びらの山を動かすさくらかな」という酒井抱一の句は、同様の視点から生まれたものかもしれない。

私がこの桜を好きなもう一つのわけは、ある種の滝がそうであるように、「裏見」ができることによる。遠賀神社への石段を上りきると、右手斜めに立つこの桜を、背面から見られる。浅い笠を傾げたようにも見える桜の内側は、逆光を受けてモノトーンの桜に変わる。

一方、家中新町にある菅家庭園の枝垂桜は、松と対をなすことで、こよなく美しい。が、実を言うと、私はこのたおやかな桜を、散り初めの頃垣間見たことがあるだけで、きちんと向き合ったことはない。庭仕事のご当主の奥様へ、私用あって立ち話に伺った折だ。桜の愉しみは、花びらが苔や庭石、池を覆うことにもあるから、私の眼はそちらへ泳いでいたに違いない。それ以前、菅家のお座敷で朗読会を開いた二〇〇七年は春が

※酒井抱一…絵師。江戸琳派の創始者。俳諧・狂歌にも才を發揮した。

花時は花が決めること。自然に逆らわぬ優しさに、あの桜は守り育てられてきたのだ。

逢いに行きたくなる桜

春に逢いたいあの一樹には自分だけの物語がいつもやさしく咲きにおう。古来、日本の言の葉にのせて語られてきた桜の文学。大河内恭仁子さんの物語を好きな桜景色とともに綴っていただきました。

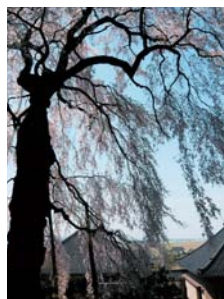
千万の花びらが  
風に揺れるのを  
私はじつと  
見ていたはずだった。  
大河内恭仁子さん

遅く、四月も二十日過ぎというのに、桜は蕾のまま冷たい雨に打たれていた。藤沢周平の『山桜』の上演中、朗読作品と花時とを合わせられなかったうらみを抱きながら、私は客席脇で控えていた。その最後列で、奥様が目頭を押さえながら聞いていらつしやるのが、目に入った。そうした自然に逆らわぬ優しさに、あの桜は守り育てられてきたのだと思うと、身勝手な思いつきとともに居た自分が恥ずかしくなった。

### 大河内恭仁子 Okochi Kuniko

鶴岡工業高等専門学校教授  
つるおかルネサンスの会代表

神戸市生まれ。本名・邦子。1979年東洋大学大学院(文学)、2009年東北公益文科大学大学院(公益学)修士課程修了。2004年、鶴岡工業高等専門学校に着任。総合科学科教授。(国語コミュニケーション)2006年、公益活動のための「つるおかルネサンスの会」を結成。庄内の歴史的建築において、朗読会、音読会、文学カフェなどを企画・開催している。



©高谷時彦

### 井岡寺

鶴岡市井岡

825年創建の真言宗の古刹。庭園の枝垂桜は400年前、寺の再建時に京から運ばれて植えられたという、いわば“華やかな桃山時代を知る桜”。鶴岡市指定文化財。※お寺の桜ですので、静かにご拝観ください。写真提供=高橋政知

### 鶴岡高専

鶴岡市井岡

学校の敷地内の桜は、11月にも花を咲かせることで知られる。八重桜の並木の中に2本あり、樹高は低く、花も小さい。写真は春の様子で、右から3本目の白っぽい1本がそれである。春に7割、冬に3割の花を付ける。写真提供=鈴木 洋

### 菅家庭園

鶴岡市家中新町

旧庄内藩の重臣菅実秀が、酒井家から拝領した御用屋敷。江戸中期の様式の庭園にある枝垂桜。公開期間:4/15~11月末、月・火・金曜日、10:00~15:00(予約受付・開園) 団体不可・要予約 園無料 写真提供=菅家

特集  
庄内  
さくら  
百花

庄内の桜は、近場で見るものもいますが、遠くに霞んで見える山の桜の光景に味わいを感じます。最上川対岸の山中に咲く濃いピンクの大山桜や、映画村の背景の峰近くに咲く桜、湯田川の山の斜面に見える1本の桜もじつにいいですし、海岸近くの荒倉山に霞桜が群れて咲く様は大好きです。

人がこうして味わいや美しさを感じる景色とは、人類の祖先がこの世に現れた頃の風景に近いのではないかと考えます。緑の中に花や実を見つけた我々の祖先は、それが食べられるものと考え、自分たちの生を約束する快いものと受け止めたことでしょう。「美」という字が羊と大から成り立ち、昔の中国人は食の豊かさと美を結びつけていたように、美と食の感覚は自然界でつながっているのです。

かつての私は、植物は見て楽しむものというよりむしろ、人にとって根源的なことは「食」だという思いがありました。終戦前後を生きた原体験から、「花より団子」の思想から抜け出せなかったのです。それでここ山形県で仕事をするなら、全国的にも特色のある果樹・オウトウ

### 桜のある風景

桜は、人の心にさまざまな感情を起こさせる  
深遠な力をはらんでいます。  
長年、植物を観賞の対象として研究されてきた鈴木洋さんに人と桜の間に存在する美観についてお聞かせいただきました。

## 春になつて

## 桜が咲く。その

## 普遍に内在する

## 生命の美しさ。

### 鈴木洋さん

鶴岡観光協会主催「第12回 鶴岡桜まつり写真コンテスト」  
最優秀賞「花暖簾」熊澤禎男



特集

## 庄内 さくら 百花

### 手蔵田

酒田市手蔵田

田園風景が広がる手蔵田地区の平田川沿いに、600mほどの桜並木が続く。地区有志が数年かけて植樹したもので、現在は手蔵田「人・和・夢」実行委員会が管理している。写真は並木の一番端に咲く桜。  
写真提供=畔上勝男

### 松ヶ岡開墾場

鶴岡市羽黒町

国指定史跡の松ヶ岡開墾場は、現存する5棟の大養蚕室と、ソメイヨシノや枝垂れ桜の風情が人気で、時期になると多くの花見客で賑わう。また毎年桜の時期には、庄内クラフトフェアと桜祭りを同時開催。今年の詳しい内容はP41へ。

### 立谷沢川流域

庄内町立谷沢周辺

霊峰月山に源を発する立谷沢川は、山形県で唯一「平成の名水百選」に選ばれた全国屈指の清流。川の両岸には羽黒山などの山々がそびえ、春にはその山並みに山桜が咲く。写真は月の沢温泉「北月山荘」近く。  
写真提供=梅津勘一

庄内の桜で好きなのは、遠くに霞む山の桜。その景色は、人類の祖先がこの世に現れた頃の風景に近いのではないかと思えるのです。



Column 1. 「自然を彩る桜たち」

桜はバラ科の植物で、その種類は300以上といわれています。植生が豊かな庄内地域でもさまざまな桜が見られますが、ここでは、里山の緑の中に色を添える素朴な桜たちを植物研究家の土門尚三さんに教えていただきました。

庄内を含む山形県の植物に、「日本海要素」といわれる植物群があります。その数はおよそ150種類で、庄内地方だけでもその大半が見られます。当然、樹木にも日本海要素といわれるものがあり、それがオクチョウジザクラのような低木から亜高木です。チョウジザクラが太平洋側に生じるのに対し、日本海側の多雪地帯のものはこの変種で、県内に野生する桜の中ではもっとも早く花が咲きます。また、山奥にぼつぼつと見られる濃いピンク色はオオヤマザクラです。サクラ類の中でもヤマザクラ群内に属し、庄内ではこの桜をヤマザクラⅡ山の桜と呼ぶことがありますが、本当のヤマザクラは山形県には野生していません。

同じヤマザクラ群内にはほかに、カスミザクラがあります。昔はこれの実を弾にして竹鉄砲にして遊んだものですが、花の色が薄く、開花はやや遅めで、市街地のソメイヨシノが終わる頃に各所で見られます。同様にオオシマザクラが

ありますが、これは伊豆大島や房総半島にのみ自生する桜で、白く清楚な花が咲きます。庄内でも街路樹などとして植栽されているのを見ることが出来ます。そして、樹高が高く、寿命が長いのがエドヒガンです。庄内に真の野生は確認されていませんが、県内で巨樹名木として文化財指定を受けているものも多くあります。ソメイヨシノの一方の親でもあり、がく筒の付け根が膨らむのが特徴です。その枝が垂れたものがシダレザクラで、枝の形が違うだけで花は同じ形質を受け継いでいます。

植物としての桜は、変異性に富み、雑種が生まれやすいのが特徴です。雑種ができるということは、両親の木があるということですが、それも野生種と栽培品種が混在していたり、地道な研究によって新しい品種も次々に作出されています。そのため桜の分類は非常に複雑です。しかしそれが、この植物の多様性であって、日本の桜をより奥深いものに行っているんですね。

談・植物監修Ⅱ土門尚三(フワラ山形副会長)



エドヒガン

がく筒がぶつくりと壺形にふくらんでいるのが特徴。野生種が変異したものを栽培化した品種が多くある。

©斎藤政広



タカネザクラ

鳥海山の太平山荘付近、月山の弥陀ヶ原付近などいづれも森林限界あたりに見られる。別名・ミネザクラ。



カスミザクラ

オオシマザクラに比べて、葉の鋸歯の先端がやややかる。庄内砂丘をはじめ、山里を中心に広く分布。

©山形市野草園



オオヤマザクラ

別名・ベニヤマザクラ。この品種の花色が白いものがアカツキザクラで、いづれもやや深い山里に分布。



オクチョウジザクラ

チョウジザクラよりも花がひとまわり大きく、葉の表面に伏毛が散生する。花期は4月中旬～5月上旬。

©畔上勝男



オオシマザクラ

山形県内では野生種は未確認。近縁のカスミザクラとの区別点は、葉の鋸歯の先端が著しく鋭く尖る。



鈴木 洋 Suzuki Hiroshi

1942年、東京生まれ。千葉大学園芸学部、京都大学農学部修士課程卒。山形大学農学部で37年間、教育・研究に従事。研究分野・担当講義は「種苗生産学」と「観賞植物学」。学位論文は「種間交雑によるサクラ属植物(Prunus spp.)の新種開発に関する育種学的研究」。退職後は鶴岡市松ヶ岡に畑を借りて、アウトウ矮性台木育種、桜や自給野菜の栽培など、ライフワークとする研究を続けている。



正傳寺

酒田市本橋

本橋駅と鳥海小学校のちょうど中間にある、正傳寺(しょうでんじ)の境内にある枝垂桜。樹齡は定かではないがおよそ100年と推定されている。同じ境内にあるもう1本の桜とは親子と見られ、春には見事な共演が見られる。写真提供=梅津勘一

注連寺

鶴岡市朝日

天長10年、弘法大師空海がこの七五三掛(しめかけ)桜の下で修行し湯殿山を開いたと伝えられる。注連寺はその折の諸人の祈禱所として開創。このカスミザクラは樹齡約200年といわれている。市指定天然記念物。写真提供=小池 均

春になれば、老若男女誰もがこの花に出会い、新しい希望に胸を膨らませることが出来る。桜は宝のような植物といえるでしょう。

(さくらんぼ)の台木育種を取り上げたい、さくらんぼの果実の真っ赤な情緒は桜以上に思いもありました。そこでこのためのアウトウと桜の種間交雑を試みました。すると研究者としては主流から外れたことに手を出してみたくなるもので、「花も団子も楽しめる桜」の育種へ波及し、さらに「人にとつて美しい花とは」「人が植物を見て感動したり、癒されたりするのはなぜか」といった、哲学、美学、心理学などへと関心が進展していったのです。

時に人は、食の問題をしのぐような切実な思いで花や緑と向きあうことがあります。特に現代、心や情緒の発達というように、植物を食糧として取り上げる以外に、自然や風景との関わりに重要な視点が存在しているように思われてなりません。そうした中で、日本人にとつて桜の存在は「精神生活の糧」というように、景気が悪かろうと、自然災害があろうと、春に

なれば誰もがこの花に出会い、新しい希望に胸を膨らませることが出来る、宝のような花です。雪に閉ざされた冬から、陽射しをあびて再生する春。その時、桜はたとえその生命が終わろうとも、世を継いで永遠に生きるために花を咲かせます。花を咲かせて実をならせるといのは植物にとつては死に近づくといいこと。パッと咲いてパッと散るその姿が生命の軽視や軍国思想の後ろ盾にされた事実はありませんが、桜に罪はありません。「武士道葉隠」、西行「願はくは花の下にて 春死なむ」そのささらぎの「望月の頃」いずれも桜の美しさの背景にある人の死を言葉にしたものです。桜の美学を生と死の交替劇とするならばむしろ「生きるための作法」であるといえます。今、世界を覆う宗教的・民族的対立などが多くある中、桜の美しさが持つ生命力、豊かさ、スケールの大きさはもっとも見直されても良いのではないのでしょうか。

協力Ⅱ財団法人山形県みどり推進機構

日本の桜は観賞用の栽培品種が多く、中でもソメイヨシノはもっともポピュラーな品種です。しかし実際は病気や虫の被害にかりやすく、手入れなくてはきれいに咲くことができません。では、庄内の桜を守るためにはどのような取り組みが必要なのでしょうか。樹木医のお二方にお話を伺いました。

「『桜さる馬鹿 梅さるぬ馬鹿』という諺がありますが、これは桜をきつてはダメという意味ではなく、桜こそ適正な剪定が必要ということですよ（梅津）。ソメイヨシノは『てんぐ巢病』という花がつかなくなる伝染病にかかりやすく、見つけ次第、病害枝を取り除きます。『ソメイヨシノは枝の切り口から腐りやすいので、きる位置の見極めが大切です。然るべき機関や企業の剪定講習を受けるといいですね。また、桜の管理はりんごの作り方に似ている。』とも。『太陽が四方からあたるように剪定して、肥料を十分に与え、葉を守るために適期消毒をする。りんごも桜もそうした環境でいい花が咲きます。ソメイヨシノは短命といわれますが、手入れ次第で長く咲かせることができるんです』（渡部）。また、庄内は四季の明瞭な地域。

**桜を育てることは  
10年、20年、50年先の  
地域への「夢」と「愛情」。**

**地道に取り組むことで  
庄内ならではの桜の景観が  
創られていきます。**

気候条件の影響も心配されることです。「雪が多く降ることは、桜の根元を寒風から守る理想的な条件です。木が乾燥すると花芽が飛んでしまう場合がありますから、雪が少ない冬は根元を囲ってあげるといいでしょう」。根を傷める原因にはさらに「踏庄」があります。これは人や車が根を踏むことで、この人為的な行動も大ダメージを引き起こします。

それでも毎年、爛漫と咲いてみせる桜の木。それを維持するには、花の時期だけでなく日ごろの心配りが大切といえます。「桜は地域コミュニティのシンボル。自治会など人の手で守ることが一番です。花だけでなく木の健康状態を見守る心で、散歩しながら気になってあげてください」。葉が枯れていたり虫がついているのを見つけたら自治会や公的機関に報告するのも一つの対策。一人ひとりが桜守となって、庄内らしい桜の景観を創っていきましょう。

監修 渡部佐界  
「庄内園芸緑化株式会社」  
梅津勤一  
「庄内総合支庁森林整備課」



蝦夷館公園 (鶴岡市)

★第12回佳作「蝦夷だての貴婦人」板垣 修

いこいの村庄内 (鶴岡市)



★第13回佳作「コラボレーション」大塚 隆



小出沼親水広場 (庄内町)

©兼古哲也



万里の松原 (酒田市)

©畔上勝男



楯山公園 (庄内町)

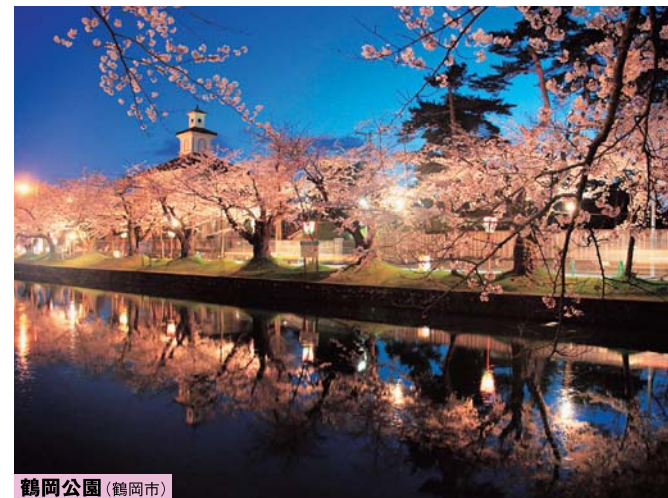


大山公園 (鶴岡市)

©八尾坂弘喜



日和山公園 (酒田市)



鶴岡公園 (鶴岡市)

★第13回優秀賞「暮れなずむ致道」三浦一喜

★=鶴岡観光協会主催「鶴岡桜まつり写真コンテスト」受賞作品より

特集  
庄内  
さくら  
百花

**庄内桜めぐり**  
観光名所、知られざる穴場  
ふと見上げた山の景色や  
ローカルな小道の中にも  
たくさんのお桜が咲いています。  
今年は山で、街で、桜を探して  
皆さんのお気に入りを見つけてみてくださいね。

**第24回 楯山公園桜まつり**  
4/23(土)・24(日)  
楯山公園

目玉は楯山名物・ニシンと豚の「あぶり焼き」。  
お得な前売り券は数量限定で販売します。  
また、桜開花時期の4/9～5/5は、ぼんぼりが灯ります。

問/庄内町観光協会 ☎0234-42-2922

**舞鶴公園桜まつり**  
4/8(金)～5/5(木)  
舞鶴公園周辺

桜のライトアップ、ぼんぼり点灯。  
夜桜をみて体が冷えたら八森温泉ゆりんこへ。

問/酒田観光物産協会  
八幡支部 ☎0234-64-3114

**藤井のエトヒガン**  
(遊佐町指定天然記念物)

鳥海  
ラブ  
ライン

庄内の桜を巡る旅の  
お手伝いをします。

お気軽にお問い合わせください  
☎0800-800-0806  
出羽庄内地域デザイン

**第31回 酒田日和山桜まつり**  
4月中旬～下旬/日和山公園

日和山公園内に、ソメイヨシノなど約400本の桜が咲き、たくさんのお店で賑わいます。

問/酒田観光物産協会 ☎0234-24-2233

**第8回 海坂の桜小祭り**  
4/16(土) 16:00～20:00  
4/17(日) 10:00～18:00  
内川ほととパーク

江戸時代の趣を演出した桜祭り。今年の内川舟下りは、桜並木をライトアップする夜に2往復する予定です。

問/公益のふるさと創り鶴岡 ☎0235-25-6320

**第14回 鶴岡桜まつり**  
4/16(土)・17(日)  
12:00～15:00  
荘内神社境内(鶴岡公園内)

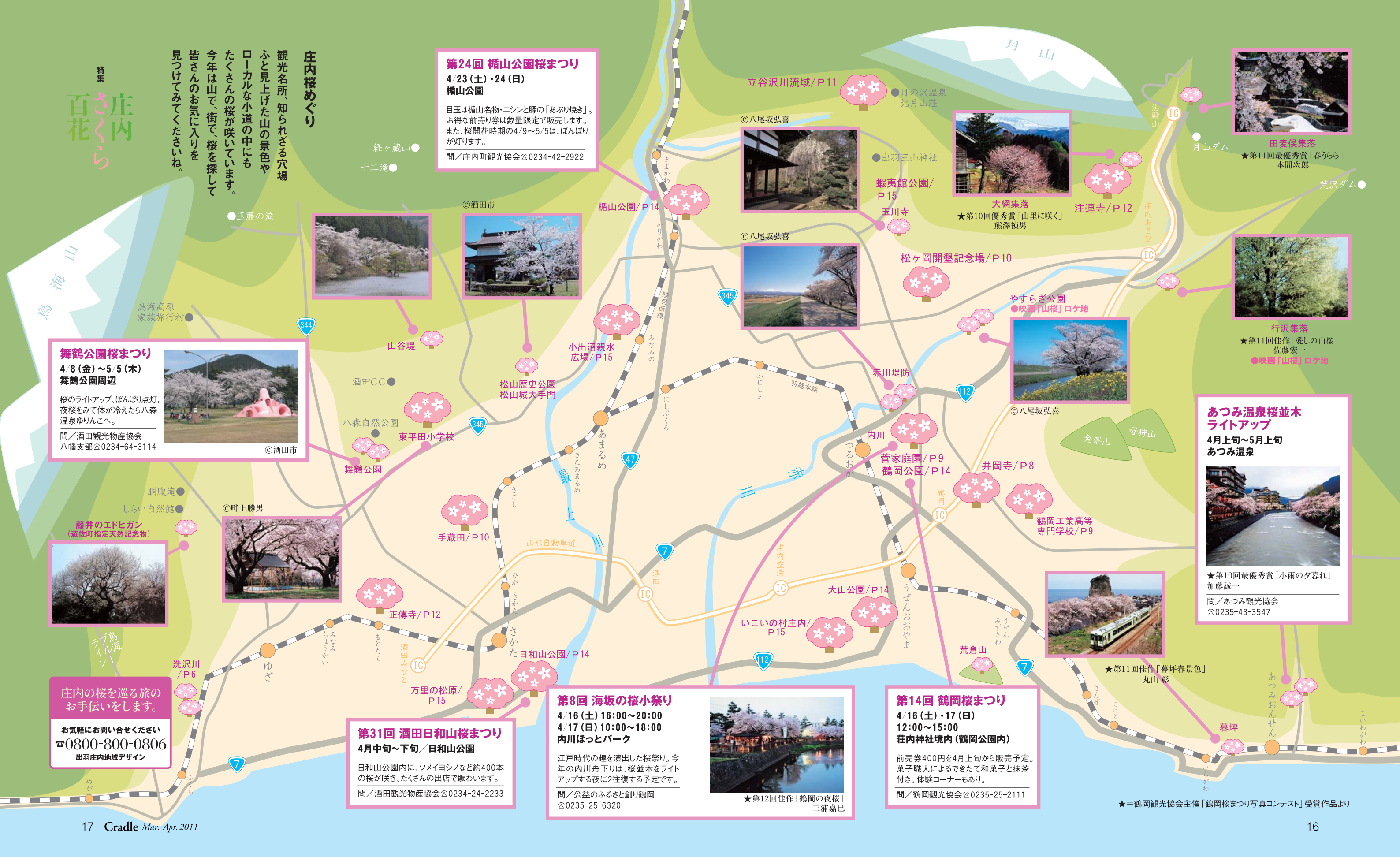
前売券400円を4月上旬から販売予定。菓子職人によるできたて和菓子と抹茶付き。体験コーナーもあり。

問/鶴岡観光協会 ☎0235-25-2111

**あつみ温泉桜並木  
ライトアップ**  
4月上旬～5月上旬  
あつみ温泉

★第10回最優秀賞「小雨の夕暮れ」  
加藤誠一

問/あつみ観光協会  
☎0235-43-3547







## 小松屋の 雛の飾り菓子

ほんのりホッペのお茶目なおかめ  
ピンク鱗のめでたい鯛、つぶらな瞳の魚や鳥  
庄内特産の野菜たち。小松屋の雛菓子は  
お菓子であることを超えた、愛らしい工芸品です。

小さな私の宝物。小松屋の雛の飾り菓子がそんなふうに見えるのは、手のひらでそうっと包み込みたくなる繊細さと、見る人の顔を思わずほころばせてしまう愛らしさを持つためか。

雪解けが進むこの季節、庄内、特に城下町鶴岡では、山海の幸をモチーフにしたリアルで鮮やかな雛菓子が店頭に並ぶ。それらは静かに微笑むお雛さまとともに庄内の春の訪れを知らせる象徴だ。そして人々は、練りきりや餡子で作られた魚や野菜を雛壇に置いて愛でたあと、美味しくいただく。だが湊町酒田の老舗、小松屋の雛菓子は少し異なる。食べるのではなくお雛さまに差し上げることを目的とした飾り菓子で、すばらしく立体的に精巧に作られているのだ。これほどの工芸菓子がなぜ酒田の中でも小松屋だけに存在するのか。

鍵はお店に伝わる「木型」にあった。通常は1枚タイプが多いなか、小松屋のは上下2枚とその間にも板がある3枚1組のもの。9代目小松尚さんは希少なこの木型の存在理由をこのように推測する。かつて奥の細道を旅した芭蕉のように、自らの新境地を求めて酒田を訪れた京の木型職人が、店主の注文に応えようと試行錯誤してたどり着いた、究極の技なのだろうと。つまりこの木型によって生み出される雛菓子には、北前船で渡ってきた京職人の魂と、湊酒田が華やかなりし頃の粋な旦那の遊び心が込められているのである。

だとするとやはり年に一度といわず、季節や気分に合わせて何個かチョイスして年中飾って眺めたい。時や場所を超えて人の心を和ませ、幸せな気持ちにさせる力が、この雛菓子にはあるから。



天保3年(1832)創業の湊町酒田の老舗菓子舗。雛菓子づくりは毎年11月、片栗粉、粉砂糖、新粉、山芋の粉、粉糖を混ぜた生地を木型に詰め込み、型から起こす「型おこし」から始まる。しっかり乾燥させた後、小刀で削って形を整え、日本画用の彩色筆などを使い分けて1個ずつ彩色する。すべて手作業のため、完成まで約3ヶ月。現在は来春分の予約を受付中(完全予約制)

御菓子司 小松屋 ☎0234-22-5151



庄内写真季行 ② 鳥海山

ブナグリーンが帯になって山を登る。  
雪国ならではのこころだろう。

庄内をとりまく山々、とりわけ雪をまとった山は春の姿が一番美しい。それを引き出しているのは、若葉色が鮮やかなブナ林の新緑で、その色を私はブナグリーンと呼んでいる。春を待

ちこがれたようにブナの芽吹きが冬芽の鱗片を落としてふくらし始め、ブナグリーンが帯になって日ごとに山を登っていく。その速さには目を見張るが、これが雪国ならではの景色だろう。